

- 中教審（確かな学力）
- 学習指導要領
- 都・区教育目標
- 「おおた教育ビジョン」

学校教育目標

- ◆ 考える子
- ◆ 健康な子
- ◆ やさしい子

- 公立学校としての使命の自覚
- CS・保護者や地域の教育力の活用
- 安全で楽しい学校
- 期待される児童像

各教科の指導の重点

- 「分かる授業」「楽しい授業」を目指して、指導法の工夫改善を図る。
- 「学級経営の充実」
- 「基礎的・基本的な学力の定着」
- 「考える力や表現する力、かかわる力」を伸ばす授業の創造
- 区学習効果測定の結果の分析に基づく授業改善プランの作成
- 単元指導計画の吟味、重点化
- 研究授業とOJTによる指導法の改善
- IT・少人数、習熟度別指導等の活用

学校経営方針

（学力向上にかかわる重点）

- ☆学級経営の充実を図り子どもたちが安心して学べる空間をつくることのできる学校
- ☆子どもたちが基礎・基本の学力を着実に身に付けることのできる学校
- ☆各教科において、言語活動の充実を図ることのできる学校
- ＜研究主題＞「読解力を身に付け、考えを深めるこどもの育成」～読み取る力を高める国語科の授業づくりを通して～

道徳教育の指導の重点

- 区人権教育研究協力校として人権尊重の理念を理解し、生命に対する畏敬の念や道徳的心情を育む。
- 考える・話し合う授業等内容を工夫する。
- 「地域と考える人権展」を開催し、人権啓発活動を行う。
- 道徳授業地区公開講座を実施。
- 副読本や資料を生かした授業の充実を図る。
- 「平和教育」を通して、人権や社会平和の理念を養う。

総合的な学習の時間・おおたの未来づくりの指導の重点

- ゲストティーチャー・地域人材の活用、体験重視型の学習活動。
- ねらいや特性を踏まえ、興味・関心に基づいた課題発見や追究活動を重視した学習を行う。
- 外国語について
- 外国語活動・低学年8時間、中学年35時間、高学年70時間行う。

本校における確かな学力

基礎基本の定着を重視

- 学習指導要領の各内容が理解できる。
- ・基礎的な言語能力を身に付ける力
- ・計算力や物事を論理的に考える力
- ・目的や場面に応じて話す力・聞く力
- 学習効果測定の結果を受け、学年毎に具体的な改善計画を策定し着実に実践する。

特別活動の指導の重点

- 縦割り班による年六回の「入二タイム」を通し、思いやりの心や所属感を養う。
- 毎週金曜日の朝の時間を学級の時間とし、児童と教員がかかわりながらいじめのない良い学級を構築していく。
- 運動会・学芸会等、地域に開かれた行事や集会を行う。

特別支援教育の重視

- 児童支援システム「結-EN」を活用し、公正で安定した児童の実態把握を行う。
- 児童理解と情報交換のため、生活指導夕会を毎週実施する。
- 月一回「オアシス会」を開き、組織的な特別支援教育を行う。
- 学習・生活に関する個別指導計画を作成し、指導に生かす。
- サポートルーム（特別支援教室）との効果的な連携を進める。

生活指導の重点

- 本校の学習・生活規範マニュアル「入ニスタイル」や「大森第三中学校区の生活スタンダード」を基に規範意識を育てる。
- 「いじめ」に関する授業や「いじめ撲滅宣言集会」を通して、思いやりの気持ちを育てる。
- 毎月の避難訓練・安全指導・セーフティ教室・薬物乱用防止教室等、安全教育の充実を図る。



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究と授業評価	評価活動の工夫	家庭・地域との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○都算数少人数・区費講師等を活用し、全学年の算数において少人数・T・T、習熟度別指導を行う。 ○太田区漢字検定や東京ベシックドリルの取り組みを全校統一し、家庭と連携して実施することで、学習内容の一層の定着を目指す。 ○学習効果測定の結果の分析し、重点単元を決め指導する。 ○「入ニスタイル」の定着を図り、学習規律を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スピーチ大会や各教科等の発表・体験の場を充実させる。 ○コミュニティスクールとして、地域・保護者と連携した教育活動を行う。 ○補習を効果的に実施する。 ○「読書力」育成に向け、朝読書やお話会等を推進する。 ○体力向上に向けて、運動や遊びの時間を十分に確保する。（改革に応じた場の工夫） 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級経営の充実と基礎基本の学力を身に付けられる授業づくりを行う。 ○個別支援を大切にしたよく分かる授業作りを進める。 ○校内研究や年次研・OJTの充実を図り、全教員が授業研究や参観・協議を通して、指導力を高め合う場を作る。 ○都・区の研究会・研修会に積極的に参加し研鑽を積む。 ○保幼小と小中一貫の二つの連携教育を進めるため定期的な連絡会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○週ごとの学年会を通して指導計画を話し合い、作成し、指導と評価の一体化を目指す。 ○明確な評価を目指し、評価規準の適正な見直しを図る。 ○学校運営協議会（コミュニティスクール）での意見交換や評価、保護者による学校評価や学校公開時のアンケートの結果を学校改善・授業改善に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム入二を通して地域人材の活用を図る。 ○区人権教育研究協力校として地域の団体・施設との交流を基盤として活動の充実を図る ○年間6日間の学校公開・各学校行事を通してPTA・地域との関わりを深める。 ○学校だよりやHP等で教育内容やアンケート結果について報告する。 ○地域、PTA・雷父親倶楽部との連携し、行事への積極的な参加を心がける。